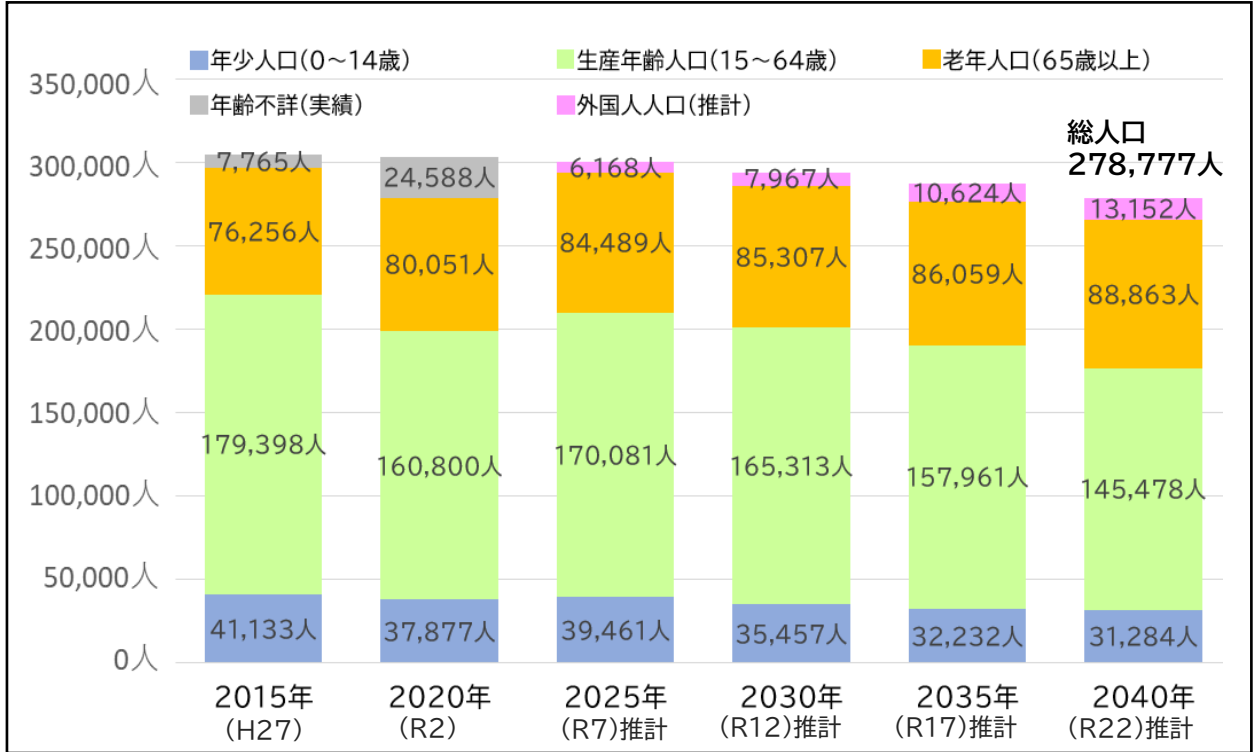


3 市の地域福祉を取り巻く現状

3-1 統計データの状況

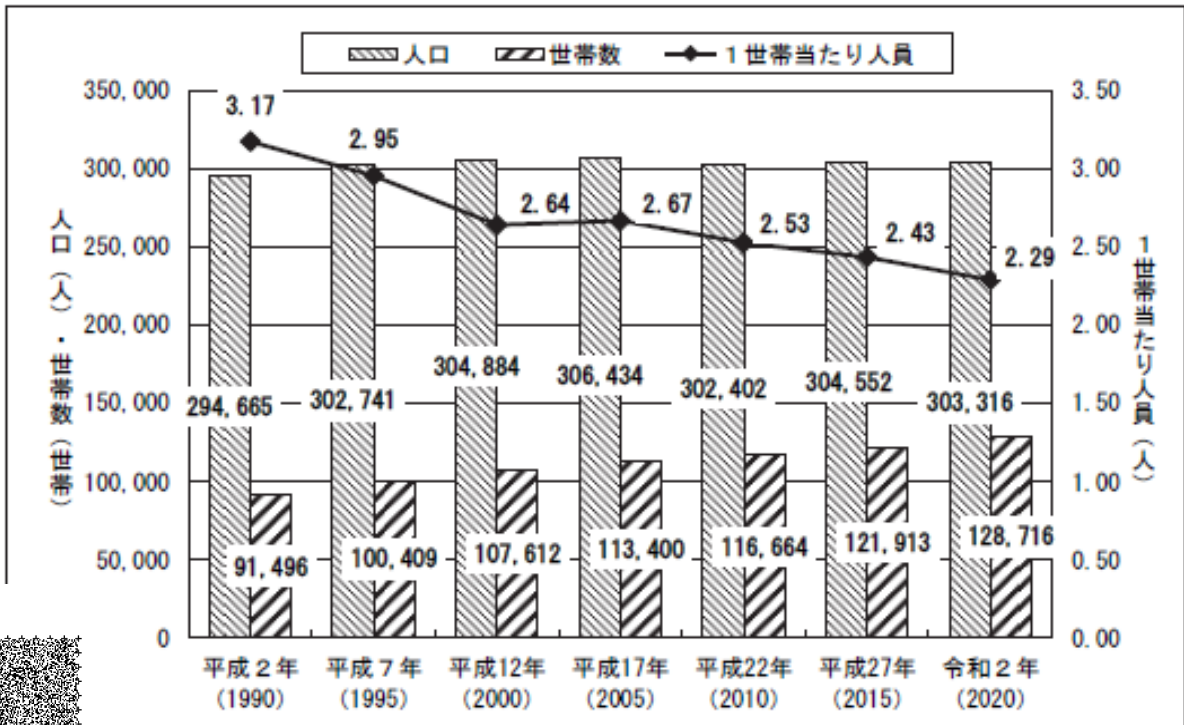
(1) 久留米市の人口推計

人口減少と高齢化が進行しています。また、外国人住民が増加しており、今後も増加が見込まれます。



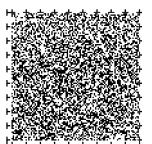
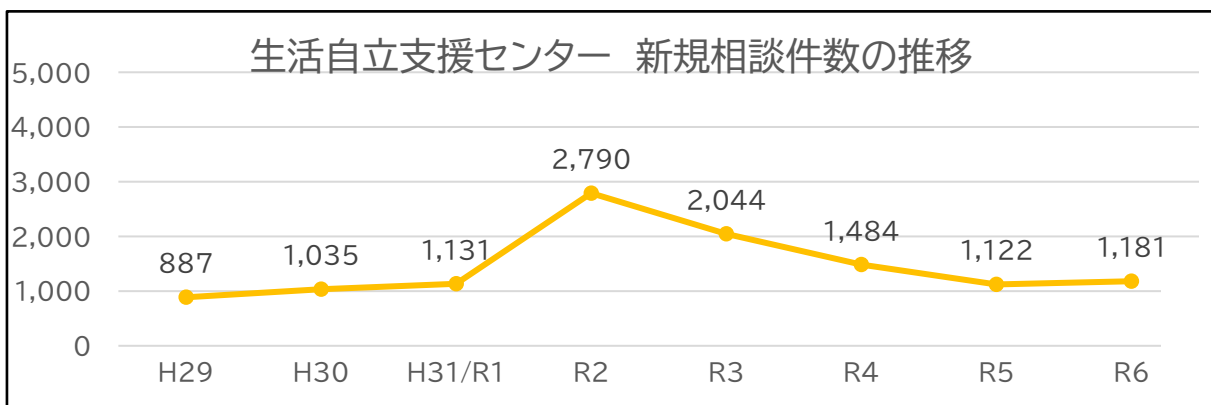
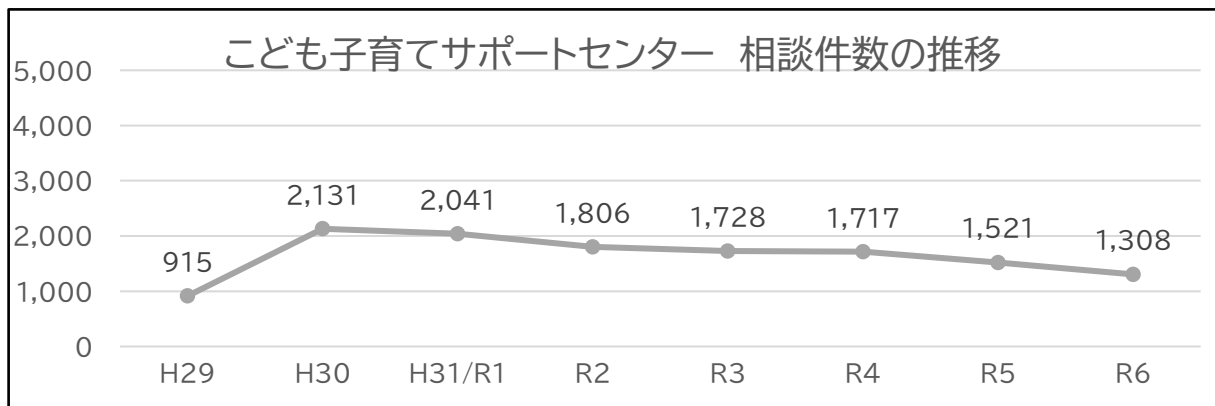
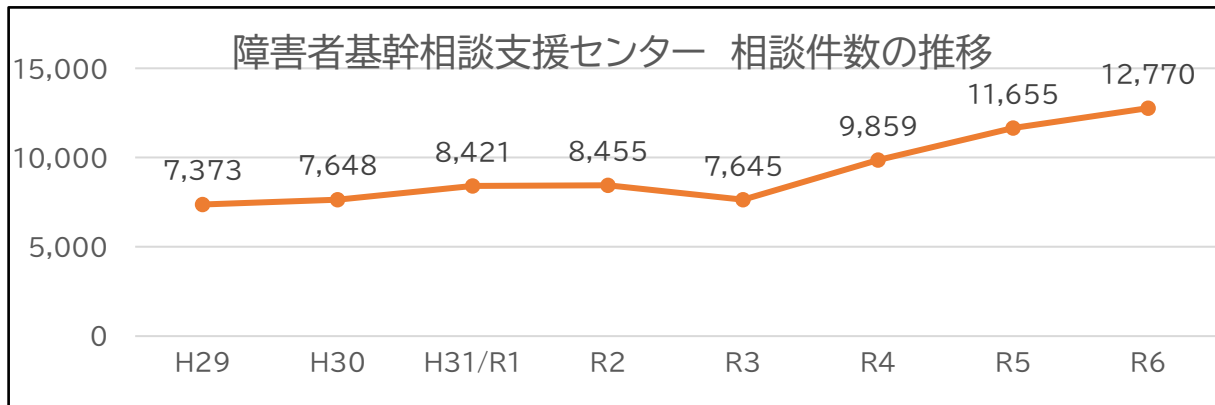
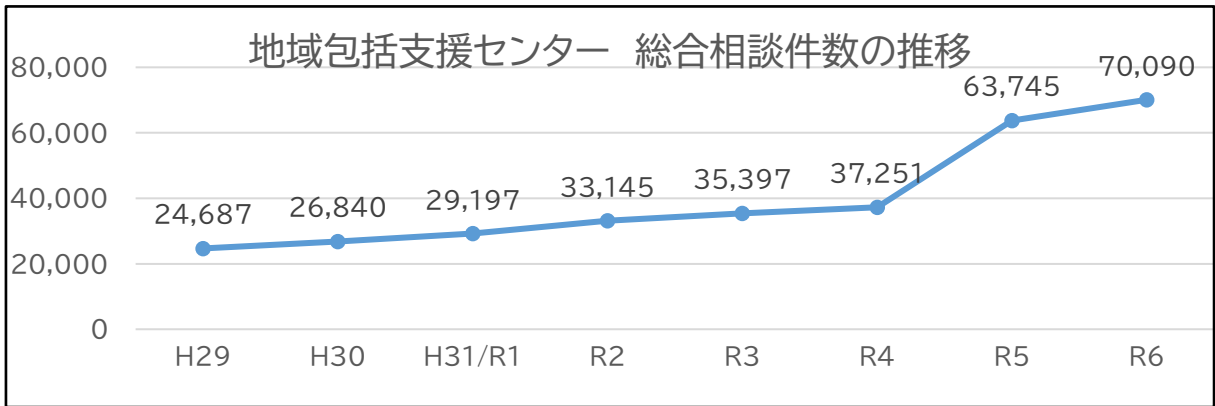
出典：(実績)総務省「国勢調査(各年10月1日現在)」/(推計)久留米市住民基本台帳に基づく市独自推計

(2) 久留米市の人口・世帯数及び1世帯当たり人員の推移



出典：久留米市「次期総合計画策定に向けた基礎調査」 ※総務省「国勢調査(各年10月1日現在)」

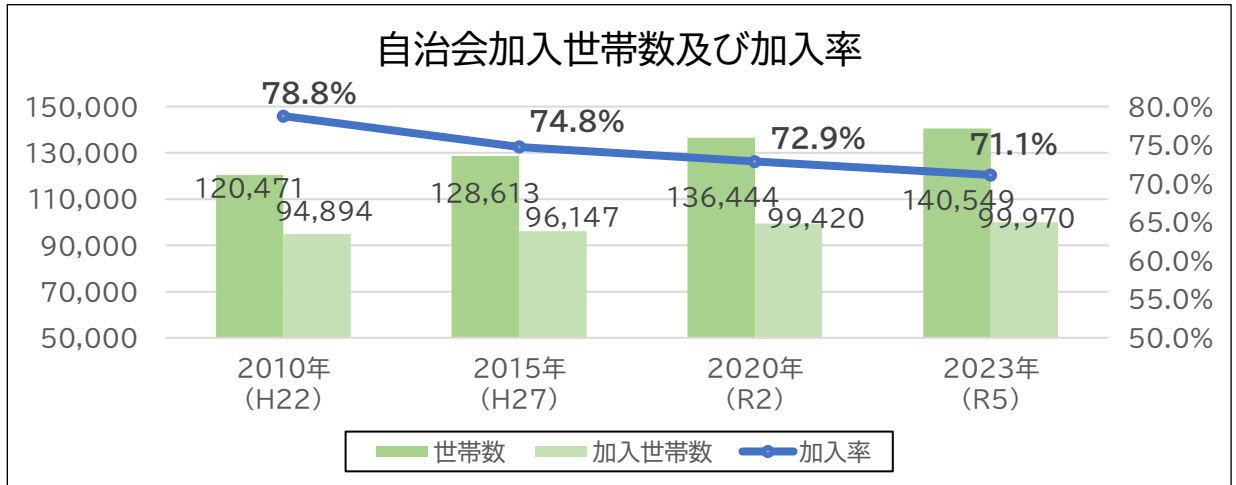
(3) 包括的相談支援事業における相談窓口の状況



(4)地域での市民の活動状況

①自治会の加入状況

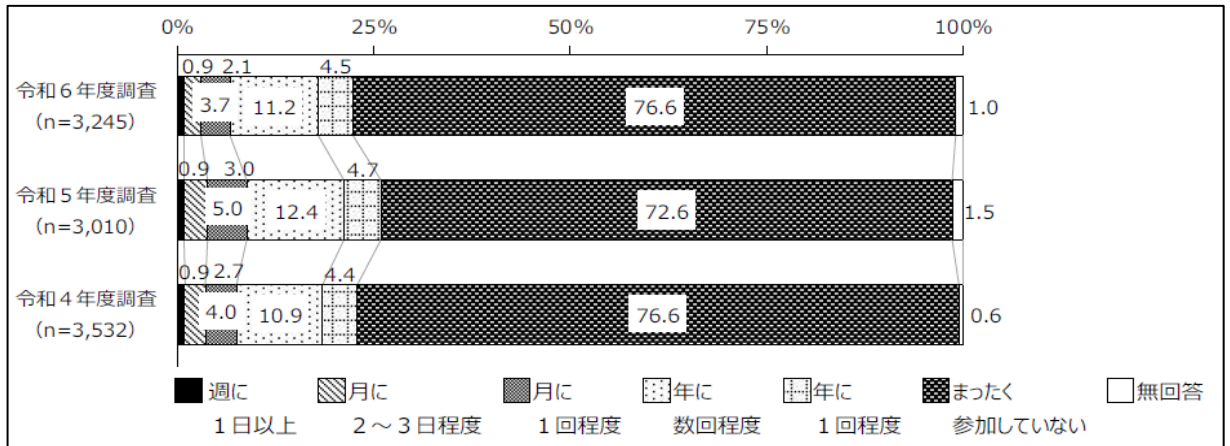
自治会加入率は低下傾向が続いています。



※久留米市ホームページ「住民基本台帳人口及び世帯数の推移(各年4月1日現在)」より

②市民活動の参加状況

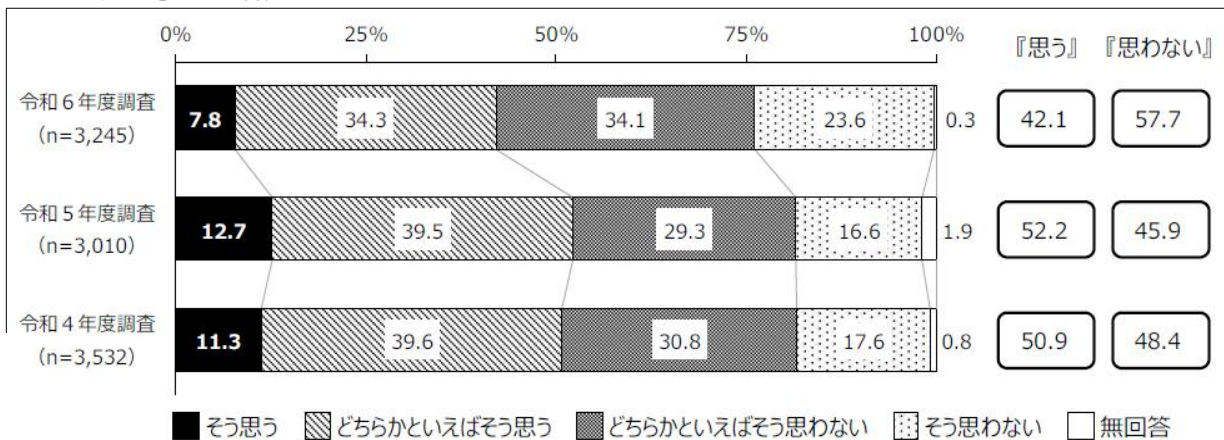
(「あなたは、オンライン開催での参加も含めて、この1年間に、市民活動にどの程度参加しましたか?」への回答)



※久留米市「令和6年度市民意識調査」より

③市民活動の参加意向

(「あなたは、地域をよりよくするために、校区コミュニティ活動や自治会活動、ボランティア活動などの市民活動に参加したいと思いますか?」への回答)



※久留米市「令和6年度市民意識調査」より

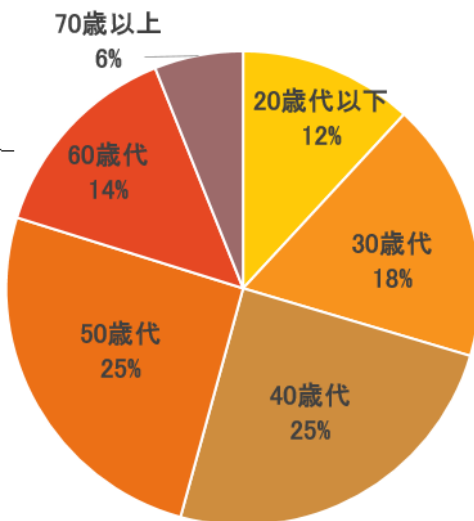
(1) 市政アンケートモニター「くるモニ」

実施概要

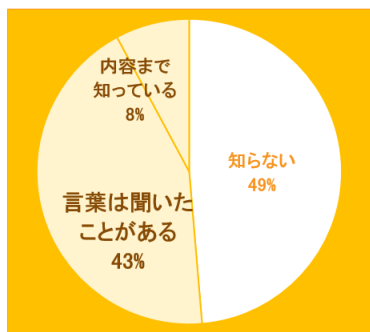
- 調査対象者: 市内在住の満18歳以上の市民から選任したモニター
- 実施方法: インターネット調査
- 実施時期: 令和6年11月8日～11月21日
- サンプル数: 599
- 回答数: 446 (74.5%)

■ 性別

	人	(%)
男	203	45.5
女	242	54.3
()	1	0.2
合計	446	100



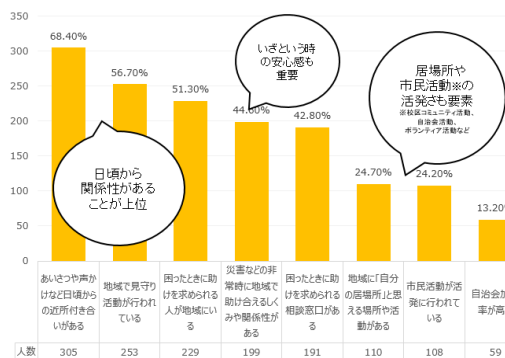
「地域共生社会」の認知度



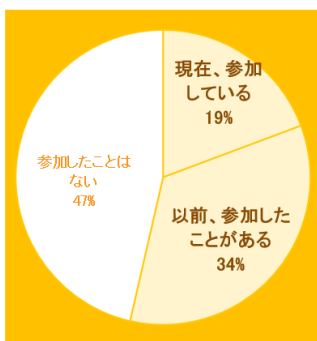
「知っている」「聞いたことがある」が51% (229人)。

H30 (2018) 年調査時の49.2%から微増。(1.8%増)

「支え合いや助け合いが充実しているまち」とは



地域の活動やボランティア活動などへの参加状況

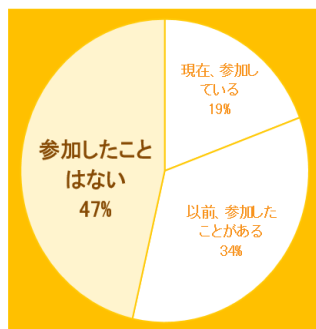


参加したきっかけ

- 第1位 地域や近所の人に誘われた (49.0%)
- 第2位 家族や友人に誘われた (28.5%)
- 第3位 自ら興味を持って (17.6%)

イベント等に参加して興味を持った (14.2%)
SNS等で興味を持った (10.8%)
その他、「地域の役員で強制的に」という人や「子ども会がきっかけ」という人もいる

地域の活動やボランティア活動などへの参加状況



参加したことがない理由

- 第1位 時間に余裕がない (54.6%)
- 第2位 きっかけがなかった (49.3%)
- 第3位 一人では参加しづらい (37.2%)
- 第4位 情報を知らない (35.7%)

興味関心がない (9.2%)
関わりたくない (4.3%)は少数派
参加したくても、「外出が難しい」「移動手段がない」という声も

- 「地域共生社会」の認知度はほぼ半数です。もっと広く知っていただくための働きかけが必要です。
- 「助け合いや支え合いが充実しているまち」の実現に向けては、日頃からの関係性やいざというときの安心感をつくっていくことが必要であると考えられます。
- 地域の活動やボランティア活動への参加には、身近な人の力が大きく影響しています。きっかけづくりや参加しやすい工夫をすることで、新しい人に参加してもらえる可能性があります。

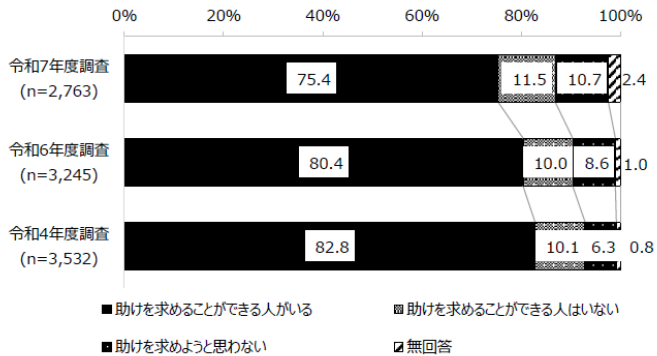


(2) 市民意識調査

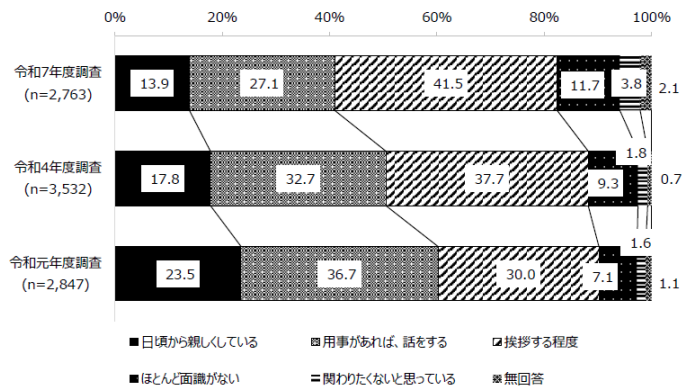
○調査期間: 令和7年6月28日～7月31日

○回答状況: 2,763人(うちインターネット回答1,256人) / 7,000人 【回答率: 39.5%】

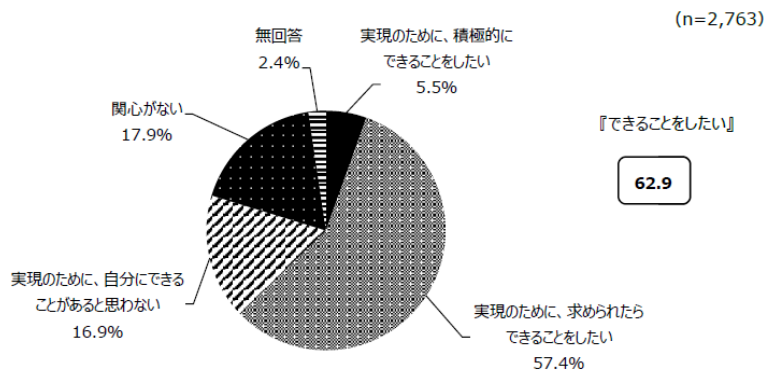
不安や心配事があったとき、助けを求められることができる人がいるか



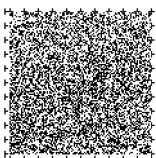
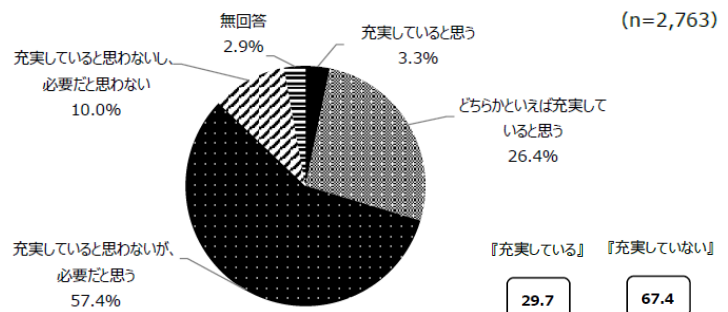
近所との付き合いがどの程度あるか



地域共生社会の実現に対する考え方



地域の居場所の充実度



(3)在宅高齢者基礎調査

調査概要

- 調査対象:75歳以上のひとり暮らし高齢者、及び高齢者のみの世帯33,368人(ただし、施設入所者等は除く)
- 調査方法:調査対象者への訪問留め置き調査(調査用紙を対象者に渡し、記入後回収する方法。ただし、必要に応じて訪問聞き取り調査を実施)
- 実施時期:令和6年10月1日～令和6年11月30日
- 実施数:11,126人(33.3%)

◇近所付き合いと介護保険認定の状況

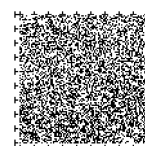
近所の人との交流が多い人ほど、介護保険の認定済みの割合が少ないことがわかりました。大学などでの研究でも、人と人との関係性の豊かさが、健康などと密接な関連があることが報告されています。

【ひとり暮らし高齢者】

		実数 (人)	介護保険認定				計
			認定済	申請中	未申請	必要なし	
交流状況	親しい友人がいる	3,022	30.2%	1.6%	24.3%	43.9%	100%
	サロンや地域行事に参加する程度	656	33.1%	1.1%	29.6%	36.3%	100%
	あいさつをする程度	2,477	35.6%	1.7%	25.2%	37.5%	100%
	必要だと思うがほとんど交流がない	212	50.0%	2.8%	25.9%	21.2%	100%
	ほとんど交流がない	419	58.0%	1.0%	18.4%	22.7%	100%
計		6,786	34.8%	1.6%	24.8%	38.8%	100%

【高齢者のみの世帯】

		実数 (人)	介護保険認定				計
			認定済	申請中	未申請	必要なし	
交流状況	親しい友人がいる	1,292	22.2%	1.1%	22.4%	54.3%	100%
	サロンや地域行事に参加する程度	411	19.0%	1.9%	26.5%	52.6%	100%
	あいさつをする程度	1,720	27.5%	1.7%	25.6%	45.2%	100%
	必要だと思うがほとんど交流がない	126	46.8%	0.8%	27.8%	24.6%	100%
	ほとんど交流がない	223	56.5%	2.7%	19.7%	21.1%	100%
計		3,772	27.1%	1.6%	24.3%	47.0%	100%



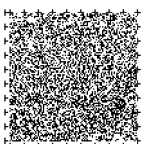
(4)団体ヒアリング、アンケート

①団体ヒアリング

○実施時期:令和6年8月～令和7年3月

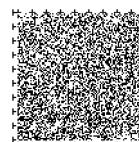
○対象団体:28団体

	団体名
1	久留米グリーンケアcafe ～やすらぎの部屋～
2	障害者就業・生活支援センターぼるて
3	久留米市障害者差別をなくす会
4	ボナペティ
5	IPC西国分
6	かみつ子ども食堂
7	NPO法人 未来学舎
8	久留米BBS会、久留米大学BBS会
9	雲遊寺
10	重層会議で取り上げたケース当事者(2名)
11	久留米大学 外国語教育研究所 准教授
12	『ちよいボラ』参加者
13	ちくご川コミュニティ財団
14	久留米市民生委員児童委員協議会会長
15	(株)TASUKIリハビリサービス
16	祐誠高校生(かみつ子ども食堂ボランティア)
17	久留米大学生(久留米・筑後体験演習履修生)
18	久留米工業大学生
19	(株)丸信
20	ゲストティーチャー
21	グランピア津福自治会
22	メゾンマリア(ライフレスキュー久留米連絡会登録法人)
23	キッズクラブ(メゾンマリアこども食堂)
24	いちょうの杜
25	地域活動支援センターⅢ型『フロンティア』
26	久留米東ロータリークラブ
27	協力雇用主
28	大善寺校区支え合い推進会議 中学生委員(2名)



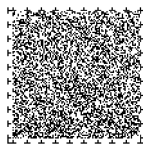
○主な意見

<p>(1)つながりの構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内のコミュニケーションが薄れているのではないか。 ・親に余裕がないことが影響し、こどもの体験に格差が生まれている。 ・人と人とのつながりの中で物事を解決する経験が乏しくなっている。相談したり、助けてもらったり、人とのつながりを友達関係の中で学べるとよい。 ・こどもの縦(異年齢)のつながりが少ない。 ・SNSで情報を受け取り、知識が偏ってしまう人がいる。 ・人が集団に帰属する意識がないことで孤立を深め、他責思考が強くなっていると感じる。 ・社会全体が個人主義で意見も多様になっている。関わりを拒む人もいる。 ・支援が必要な家庭ほど、親族含め他者とのつながりが少ないケースが多い。 ・信頼関係は長い時間をかけ、つながりの中で生まれてくるもの。日常の中で、気掛けてくれる人が周りにいてくれることは大切。専門機関でも信頼関係がないと支援できない。 ・支援制度の対象にならない人が自分の力で生きていけないといけない。困っている人がどこにいるか見えにくい社会になっている。 ・こどもの頃に地域でかわいがってもらった経験があるから、大人になって地域に還元する気持ちが生まれる。 ・親のコミュニティがほしい。子育てのフェーズでほしいつながりが異なる。小・中学校になると少なくなっていく、高校ではまったくない。 ・日々あいさつを交わしておく顔を見てもらえる。その安心感が非常時に生きる。 ・困難な状況にある同僚がいることを知ることで、社内に気かけ合う関係性が生まれた。
<p>(2)見守り活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「私をちゃんと見てくれている」ということが安心感につながる。最近顔を見ない、顔色や歩き方などの変化への気づきが大切。 ・見守り活動では、信頼を得ている人と一緒に訪問すると警戒されない。 ・夜回り活動では、同年代から声をかける方が話を聴いてもらえる。 ・外見だけでは支援が必要とわからない子どもがいる。こどもの行動にアンテナを張ることが必要。 ・移動販売によって買いに来る人の見守りが自然にできている。 ・自治会の日頃の活動や声を掛け合う関係性があつたことで、お互いが見守り、見守られる「見守りシステム」構築につながつた。 ・マンションの住民で草取りを年3回行なっているが、目的は草取りよりも顔を合わせることに。
<p>(3)誰もが集える場の拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護者の方が被介護者を気にせず思いを話せる時間が必要。 ・死別離別などの「喪失」を抱えた人が話せる場が必要。誰にも言えない苦しみも、場に来ていううちにふつと言えるときが来る。 ・今必要でなくても、辛さを話せる場所があることを知っていることはお守り(こころの支え)になる。 ・障害者だからといって健常者と何も変わらないということを知る場が必要。 ・障害のある人の中には、障害のない人や同世代(若い人)と関わりを持ちたい人もいる。手帳あるなしに関わらず集える場所が必要。 ・地域に子どもが集まりやすい場所がない。公共空間でも管理者の見守りや場の目的に応じたルールがないと、「うるさい」と子どもが排除される。 ・子ども食堂は他学年との交流の機会にもなっており、子ども食堂のなかで“小さな社会”を体験できている。 ・居場所とは「仲間・人とのつながり」「人と過ごす時間」のこと。居場所では自分に自信が持てる。 ・災害時のこどもの居場所がない。平時から使えるこどもの居場所があれば、災害時も自然とそこに集まれる。 ・居場所運営のための物資やノウハウはあるが、場所だけじゃなかった。田舎では場所はあるが人がいない。 ・異なる世代との交流の場が必要。子どもと触れ合うことで高齢者も元気が出るし、こどもの体験も深まる。 ・共働きの家庭が多く、休日に親がいないから子ども食堂に来る。大勢で食事をする機会があつてよかった。 ・大きくなると、自分から地域の人に関わりに行けなくなった。地域の人顔の知らない。子ども食堂のように地域の人と関われる集まりがもっとあるといい。 ・年齢が自分より下の子と遊ぶことで「すごいなあ」と言われたりして調子に乗る。調子に乗る体験が自己肯定感を育てる。 ・地域の集まる場所は、中学生限定ではなく地域の人もいたりして、地域の人と距離が縮まればいいと思う。



<p>(4)個別の対応が必要な人への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルがあっても、生活環境面(家族関係)に課題があると安定した就労は難しい。 ・周りが先回りして環境を整えてしまい、自分で発信する力や自己理解が育っていないことがある。 ・60代の就職相談が増加している(男性の方が多い)。年金だけでは暮らせない方がいる。 ・障害を受容できていない方への支援は難しい。一般就労できた方が蹟くと、自分の特性を理解できておらず介入が難しい。 ・今のシェルターは虐待ケースでないといれずハードルが高い。市への報告を本人が望まないときもあり、一時の駆け込みどころがあるといい。 ・問題が家庭内に押し込まれていると感じる。誰にも弱みを見せたがらない親がおり、「特別な支援」を嫌う。一般的な対応であると言うと、受け入れられやすい。 ・制度やサービス対象外の方に対しての支援が十分でない。 ・相談先がわからない。そもそも相談に行き辛い。 ・働きたいけれどどうしたらいいかわからなかったときに「一緒に探していこう」と言われて不安が減った。 ・ルールがわからない外国人は、母語が違う国で暮らしており、いっぱいいっぱい。日本語が母語の人とは理解のステップが違うことに配慮してほしい。 ・生活者としての「外国人」は色々。技能実習生、外国ルーツのこども、仕事で来ている人。それぞれの立場で、ニーズや必要なサポートは違う。 ・外国人は窓口に行かない。行く人は問題解決する力がある人。情報発信は、ポスターを貼って「伝えた」ではなくて、いろんな方法を使ってほしい。 ・当事者は自分をヤングケアラーだと思っておらず、親を守りたいだけ。きつい子ほど声をあげない。 ・「障害に関する知識がないので付き合えない」と言う。そんなことはない。専門性より関係性。 ・再犯防止に「こうすれば大丈夫」といったものはない。仕組み化できない、個別の対応が必要。
<p>(5)災害時支援が必要な人への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時は、こどもの居場所がない。災害時にこどもの居場所があれば、大人は災害現場(家)の整理ができる。平時から使えるこどもの居場所があれば、災害時も自然とそこに集まれるようになると思う。 ・大雨災害後、こどもが雨と雷を怖がるようになった。こころのケアも必要。 ・こどもたちが屋外活動を経験する機会がない。火を起こすなどの経験は、災害時の備えにもなる。 ・災害時に感じたのは、言葉の壁より孤立感。外国人避難者に必要なのは、「外国の文字で説明すること」ではなく、「関係性を作れる相手がいること」。 ・災害は地域の脆弱性があらわになる。地域のつながりの薄さやこどもの居場所がない問題が顕在化する。 ・避難所がバリアフリーになっていないことも多い。 ・車椅子だと避難所生活で広いスペースが必要だが確保できるか不安。他の避難者への後ろめたさもある。 ・施設だけでなく、校区住民と一緒に防災訓練を行なっている。
<p>(6)権利擁護の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・要介護になっても、認知症になっても、自分の家で暮らしていけるといい。 ・障害者には、何かしてもらわないと、自分がしたいことを成し遂げられない現状もある。介助してもらいながら主体性を持つのが難しい。 ・合理的配慮は、一緒に過ごすための「工夫」。差別をなくすためには、想像することが大切。想像できるようになるために関わる機会が大事。 ・人権とは人を大事にすることで、すべての人の権利のこと。優しいまちは生きやすい。 ・就職の際、やりたいことがあったが、ハード面のバリア(スロープ、トイレ等)のため断念した。 ・介護者がなんでもやりすぎると主体性をなくしてしまう。できることを取り上げないでほしい。 ・差別は「生産性の有無」から生まれる。障害者は仕事をしていないことがあるため、余計に生産性の面から差別される。 ・わかり合えないのは違う人間だからというだけなのに、日本人と同じことをしても、外国人だと許せないという人がある。
<p>(7)多機関連携の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の職員には、担当外の相談でも一度は受け止めてほしい。 ・「私はしんどい」という声を上げられる(受け止められる)体制づくりを進めたい。 ・こどもから大人まで、誰に相談すればいいかわかっている状態をつくりたい。 ・「行政が全部支える」というのが間違いのもと。支えたり支えられたり。人として関わるのが大事。 ・1つの支援機関では、本人に影響を与える外部要因にまで介入することは難しい。世帯に関わる他の支援者との連携の必要性を感じる。 ・個別支援にかかるケース会議の場に公的な支援者以外も呼んでほしい。公的支援とインフォーマル支援とのチームアプローチを一緒に考える機会がほしい。 ・複合的な課題を抱えている家庭が多く、様々な分野が関わる必要が高まっている。 ・制度、サービスの対象にならない狭間の方へのサポートは、1団体だけでは対応が難しい。 ・連携に必要なのは、いわゆる顔が見える、互いの活動や事情がわかっている関係性。 ・民生委員・児童委員が孤独。現場の大変さをわかっている存在が地域にいることは大事。 ・別々に動くのではなく、重なることでつながって関わる人が増える。 ・医療で処置はできても、「ケア」はできないことがある。 ・外国人も巻き込んでほしい。「支援の対象者」でいるのは嫌。
<p>(8)財源確保の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を継続するためにも、お金と場所は必要。 ・こども食堂の立ち上げにあたっては、場所とお金、保険の問題がある。 ・地域の人から5万円の寄付をもらい助かった。 ・物資(特に食材)をもらえる機会が増えるといい。 ・フリースクールは家庭によっては金銭面で選べない選択肢。学びの選択肢を確保するために公的支援であるべき。

<p>(9)地域における人材の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAや地域の活動が構成員の都合で決まり、働いている人には合わなかったりする。 ・世代間のギャップが大きい。「できない」は一旦置いておいて「できていること」を評価すること。それぞれの世代がやっている良いことに光が当たるとよい。 ・活動する組織・団体の構成員の価値観が偏っていたりすると、他の人が関わりにくい。担い手が交代する、組織の循環も必要。 ・役ができないという理由で自治会を脱退する人が出てきたため、規約を変えて、執行部で次の自治会長を推薦するようにした。 ・組織で役職につくことで他者のことを考えられるようになることもある。 ・子ども食堂に高校生が参加することで、小学生にとって大人より近い関係性でコミュニケーションが取れたり、将来の姿をイメージしやすくなっている。高校生にとっても、子どもと関わる仕事を考えるきっかけになり、相乗効果が生きている。 ・活動への意欲がある人は一定数いる。活動者や活動したいと考えている人とのつながりがほしい。 ・心意気ある個人が参加しやすい仕組みや、日常の困り感を拾う場を設けてほしい。 ・地域の中には「手伝いたい」「やりたいことがある」という人が潜在的にいる。行動に移すきっかけや踏み出す勇気が必要。誰かが誘ってくれたら参加しやすい。 ・「これくらいならできる」という気軽さがあると参加しやすい。実際に参加してみると「これくらいならできる」と自信にもなるし、「楽しい」と感じる。「小さなことができることがある」と知れば「それなら手伝える」という人は多いと思う。 ・中間組織がそれぞれの分野であって、テーマごとに機能するといいい。中間支援団体を育成するための伴走型支援も必要。 ・子どもたちに、学校を卒業しても地域とつながっていてほしい。 ・多文化共生に取り組む効果は長期で出る。外国人児童も日本社会で活躍する時代が来る。
<p>(10)地コミ組織等への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの活動拠点として無料で使える場所が欲しい。 ・自治会未加入者が増えている。未加入の理由はお金と役員の負担。 ・課題を地域の役員がどうにかしなきゃいけない風土をつくと、担い手がなくなる。みんなで負担を分散できるよう、必要な情報を伝え、住民を巻き込む役割が大事。 ・自治会をフランクな声かけができる場にしたい。
<p>(11)社会福祉法人・学校・事業所等の地域貢献の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者雇用の制度が広がる中で、理解ある企業も増えている。それでも、「人としての当たり前」はある程度身につけて来てほしいとの意見がある。 ・子ども食堂を中心に地域での連携がとれるようになった。 ・地域貢献と経営者の視点は両立する。同業者と地域の人たちによく知られていることは長い目で見るとメリット。 ・地域とのつながりを重視した企業活動に共感した人から、働く場所に選ばれることもある。 ・事業所が地域の担い手になるには、実際問題として人員が足りない。金銭的な補助ではなく、「なぜ地域貢献をするのか」見えにくいメリットを発信できたら。 ・支援することで、関心が生まれ“つながっている感覚”が養われている。 ・「儲け」より「地域の未来」。社会貢献を行うことで企業価値も上がる。「業務の延長線上のもの」「社内で完結できること」だと協力しやすい。 ・社会の色々な課題を解決するためには、行政の力だけではなく、地元企業の協力が必要。 ・地域貢献は社会福祉法人も望んでいること。地域あつての社会福祉法人だと思っている。
<p>(12)福祉人材の養成と資質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・つらいことを受け止めるのもつらい。支える人のこころのケアも必要。 ・既存の制度サービスを柔軟に活用できたらいい。 ・民生委員・児童委員として色々活動をしていても、住んでいる人に届いていない、理解してもらっていないと感じる。 ・久留米は医療介護サービスが充実しているのに、社会資源として上手く発信できていない印象。 ・新人職員研修では「仕事は増えるけど、おせっかいをしよう」と話している。
<p>(13)福祉への理解を深める取組みの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも加齢とともに体が不自由になる。お互い様の経験値を高め、想像力を持つことが、差別をなくすことにつながる。 ・支援を受けていると、何かをやりたいと思っても、サポートしてくれる人の顔色を窺ってしまう。本当の気持ち聞いてもらえる関係が大事。 ・常にアンテナを張っているんならに発信している。「こんなことをやっている」ということを知ってもらうことが大事。 ・福祉は高齢や介護、施設といったイメージ。遠い未来のことで自分事として捉えることが難しい。知ることによって協力できる幅が広がる。 ・学校からの案内を受け、これからの自分の生活に活かせるように、自分の糧になるようにという思いで支え合い推進会議に参加した。 ・地域のお祭りなど元々地域活動に親子で参加していた。(母が参加している)推進会議についても家で話をしてきたことも参加のきっかけに。 ・支え合い推進会議に参加するようになって、会議のメンバーの顔を思い浮かべながら地域の取組みに参加したり、地域の方と良く話すようになった。



②前回ヒアリング団体アンケート

○実施時期: 令和6年8月～令和7年2月

○回答団体数: 10団体 + 電話アンケート1団体(送付団体数: 28団体)

	団体名
1	AA(アルコールクス・アノニマス)久留米グループ
2	NPO法人 聴覚障害教育支援 言葉の森くるめ
3	♪メモリー・ケア♪
4	NPO法人 にこにこ会
5	NPO法人 子育て支援ボランティアくるるん
6	くるめ傾聴ボランティアろばの耳
7	NPO法人 ソシオの杜
8	NPO法人 日本防災士会久留米支部
9	NPO法人 にじいろCAP
10	KHJ全国ひきこもり家族会連合会 福岡「楠の会」
11	Kurume Filcom Uniteam(クルメフィルコムユニチーム) ※電話アンケート

○主な意見

現プランの8つの課題	解決への取組みが十分に進んだ	解決に向けて今後も継続した取組みが必要	解決への取組みがあまり進んでいない
①支え合う意識やつながりの希薄化への対応が必要	1	7	2
②誰もが気軽に集える場の不足への対応が必要	1	6	3
③相談しづらいことへの対応が必要	1	6	3
④複合的な課題や制度の狭間の課題等への対応が必要	0	9	1
⑤地域防災力の強化が必要	1	6	3
⑥地域課題等の担い手不足への対応が必要	0	6	4
⑦地域住民等への支援の強化が必要	0	7	3
⑧情報が適切に入手できていないことへの対応が必要	0	8	2

【課題について】

- ・各種団体の高齢化が進んでおり、企業等からの人的や金銭的な支援がもっと必要。
- ・活動はして来たが、依存症に対する社会の風潮など、努力が必要な課題は沢山ある。
- ・久留米市は、市民の活動の斬新さはピカイチで行政の柔軟さもすばらしい。しかし、課題は余りにも大きい
ため、まだまだ力を注いでいく必要がある。
- ・市の東部にも集まる場所があったらいい。
- ・外国人住民の中には、市からの通知の意味や、文書が届いてもどうしたらいいかわからないという人がい
る。制度やルールがわからない人もいる。
- ・活動に参画しない(したくない)人がいることよりも、従来のやり方にばかりこだわってしまう人たちや仕組み
に、外部の視点をとり入れる工夫が必要ではないか。
- ・団体が高齢化しているため、他のグループと一緒に活動できたらと思うことがある。
- ・参加者が楽しみながら参加できる講座、男性が参加しやすいような講座づくりが必要。
- ・相談しづらい人たちの背景を知ることが、人との関係が希薄化する要因の理解につながるのではないか。

【地域共生社会の実現に向けて】

- ・依存症は、社会の認識や啓蒙施策も含めて、行政と連携が必要。
- ・地域の企業や商工会の方に活動を知ってもらおうチャンスがほしい。
- ・こどものことは、親、PTA、主任児童委員だけになりやすい。企業とこどもをつなぐかけはしの役
割をしたい。
- ・すき間にいる人達のサポートを行政と取り組みたい。
- ・今までも色々な活動に参加してきたが、今後も協力できることはしたい。言語や文化、料理など国
際交流の機会があれば、参加したい。

(5) 圏域ワークショップ

【実施概要】

内 容: 校区支え合い推進会議と共催で、地域コミュニティ組織など特定のエリアを中心に活動する団体、市民活動団体、ボランティア団体、福祉事業所、企業などが集まり、【地域を語る×地域にかたる(※)】と題し、以下のテーマについて意見交換を実施。

※「かたる」とは、加わる、参加するという意味の方言

テーマ: 語る① 「私の地域はこんな地域」(カードを使用し、お題に沿って語り合い)

語る② 「こんな地域をめざしたい(理想の地域像)」

語る③ 「めざす地域のために、やっていること、できそうなこと、やってみたいこと」

期 間: 令和7年3月～6月

開催数: 5回(5圏域×1回)

【ワークショップのまとめ】

5つの圏域で実施し、地域性の異なるエリアにおいても、めざしたい地域のイメージや、理想の地域を実現するために実際に取り組んでいることや取り組んでみたいことなどについて、以下のような共通した要素があることが見えてきました。

世代を超えた
つながりや
居場所がある地域

相談しやすい環境や
関係がある地域

安心して
子育てができる地域

災害に備えた地域

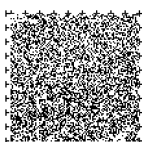
地域に参加できる
きっかけがある地域

【各圏域で出た意見】

各圏域で出た意見等を42ページから46ページにまとめています。

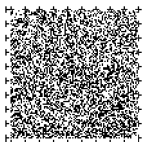
枠内の記号の意味は以下のとおりです。

◇地域(住民)の声 ○子ども(小中学生)の声 ◆多様な主体(団体等)の声



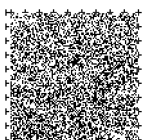
【中央圏域】

こんな地域をめざしたい	めざしたい地域のために…
<p>【つながりや支え合いのあるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇隣近所の顔が見える関係性がある ◇困っている人に声をかけられる ◇住んでいる人の困りごとがみえやすいまち ◇おかずを多く作りすぎたときに分け合える ◇一人ひとりの小さな願いが叶い続ける ◇◆近所の人たちと気軽にあいさつができる ◆どんな人も役割を持ち活躍できる ◇いつでもどんな事でも助け合える ◇◆一人暮らしでも楽しく生き生きと過ごせて、孤独死がない ◇差別がない ◇自分自身が価値がある存在と思えるまち ◇子どもと大人のコミュニケーションが取れている(顔や名前がわかる)まちにしたい 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇地域の人に会ったらちょっとでも声かけ ◇SNSを使って困りごとの解決や願いを叶える活動 ◇地域で役員等を頼まれたら断らない ◇自分の顔を覚えてもらう ◆子どもたちに認知症予防カフェに参加してもらっている <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇身近な人に社会貢献の良さをアピールする ◇地域の人と一緒に、空き地を利用した野菜作り ◇自治会加入を促して住民の横のつながりをつくる ◇◆使わなくなったものを必要なところへ寄付はできそう
<p>【交流の場と住民参加が活発なまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇まちの至る所に「おしゃべり居場所」がある ◇縁側みたいな、少人数で気軽に集まれる場所がたくさんある ◇マンションに住んでいる人も、コミュニティセンターの行事に参加してもらえる ◇今日は暇だからコミュニティセンターにしゃべりに行こう！と気軽に言える ◇誰もが参加したいと思う「地域の行事」がある ◆世代間の交流が自然とできる場所がある 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇話しやすいコミュニティセンターの雰囲気づくり ◇コミュニティセンターに来たことがない人に来てもらうための、マルシェや音楽コンサートの開催 ◇回覧板に入っている行事案内を一目でわかるように要約 ◇◆地域行事に参加して顔見知りになるようにしている <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇もっと人を誘って、今日のワークショップみたいなことを続けて行う ◇まずは自分が地域行事に参加して、楽しかったことを周囲に伝える ◇校区の行事に参加してもらえる校区一ポン(校区のお店で使えるクーポン)発行 ◇子どもが中心となって開催するバザーやフリーマーケット
<p>【防災の充実・安全安心なまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇認知症になっても、ならなくても安心して生活できる ◇災害時に、高齢者の方々の安全確保ができる ◇◆災害時に頼ることができる人がすぐ来てくれる ◆それぞれの健康をめざせる ◆交通事故"0" ◆防犯がしっかりしている 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇災害ボランティアと防災の啓発 ◇◆認知症・介護予防のための学習会・体験会の開催 ◇◆地域分を揃える備蓄食料を準備している ◆災害時に隣近所の避難者を受け入れている <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇図上訓練などをして、危険な場所を把握する ◇避難場所、危険箇所、行動手順を記載した災害マップ作成 ◇水害のパンフレットを大きく見やすいようにする ◇防災をテーマにしたイベントの開催
<p>【子育てしやすいまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇安心して遊べる場所がたくさんある ◇長期休みに子どもが集える居場所がある ◇高齢者と子ども達ももっと密に関わる場所がほしい ◇◆子どもがたくさんいる、遊び声が聞こえる ◇みんなで子育てできる ◇地域全体で子ども達を見守るしくみがある 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇公園で遊んでいる子ども達と一緒に遊びつつ見守り ◇子ども食堂の開催や保護者が集まって話せる場づくり ◇朝、小・中学校の前であいさつ運動 ◇子ども達に昔遊びを教える <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇子育て中のママの話を聴く ◇◆放課後や長期休暇にコミセンや事業所のスペースを開放する ◇保護者、学校の先生、地域住民で今日のような交流会を開催する ◆自習室の提供をして、子ども食堂をサポート
<p>【生活環境が整ったまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ごみが少ない ◇買物と交通の環境が整っていて住みやすい ◇歩道が整備されている ◇街灯がたくさんあって夜でも安心して歩ける 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇資源ごみの分別ができていないとき、進んで片付けをする ◇散らかったごみの片付けをする ◆地域の清掃 <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ミニバス・乗り合いタクシーの運行 ◇家の周りの清掃 ◇児童のプロデュースで行う、公園整備 ◇スーパーが遠いので、買い物支援をしてみたい



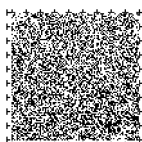
【東圏域】

こんな地域をめざしたい	めざしたい地域のために…
<p>【魅力的なまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇若者が移住できるような地域 ◇立ち寄れるまち ◇病院、お店、銀行、交番などがあるまち ◇歴史と祭りを残している地域 ◇買い物で困る方が多いので、沖縄で見た共同販売店のような施設をつくりたい (集落の中に売店を設置、店主は住民が交代で行う) 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇こども会は仲がよいので、集まってバーベキューしている ◇親同士の交流 ◇若い世代に振興会の役員を担ってもらうための取組み ◇野菜の直売所で農業体験をしている <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇農業一日体験塾 ◇都会のこどもたちの農家宿泊体験 ◇校区の魅力発信
<p>【祭り等の復活・イベントの企画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇全員集合！人が集まる地域 ◇河川公園にてキッチンカーなどを迎え、お祭り等開催 ◇人が集まってくるような地域 ◇高齢者が参加できるイベントがあって、一人暮らしの高齢者でも外出しやすくなってほしい ◇みんなで協力して、いろんな行事をいつまでも継続していきたい 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇お祭り、文化祭 ◇獅子舞保存会活動 <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇伝統のお祭り(田植えの後の集まり)の復活 ◇各地域対抗運動会 ◇野菜マルシェ、屋台村 ◇年配の人も出演側として参加できるようなイベント ◇夏祭りに小中学生参加 (今のこどもたちは昼間クラブで忙しい、もっと来てくれたら嬉しい)
<p>【住民同士の交流・あいさつ・声かけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇行事だけではなく、交流がある地域 ◇小学生が朝のあいさつがよくできているため、これからも続けてほしい ◇年をとっても安心して生活できる地域 ◇何もないけど人にやさしい地域 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇校門前でのあいさつ運動を月2回実施している ◇空き家のまわりの草取り(泥棒除け、見回りも兼ねて) ◇一人暮らし高齢者への慰問(校区社協の取組み) <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇自治会でコミュニケーションをはかる お互いの状況を知らない部分も多いので、知るところから ◇地域の人が多く交流できる行事を増やす ◇会ったときに声かけをする ◇得意なことを活かし合った助け合いをやってみたい
<p>【生活や交通の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇移動に困ることがなく、高齢者が安心して生活できる取組み(無理せず、できるしこで) ◇交通網の整備(陸の孤島の解消) ◇交通手段の確立(福祉バス、両筑バスの延伸) ◇買い物が便利な地域 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇コミュニティタクシーの実施 <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇外出が困難な人の手助けをするため、自治体の代わりに自治区でコミュニティバスのようなものを運行する ◇避難所の運営ボランティア
<p>【子育てしやすい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇こどもの声がひびくようなまちになったらいいと思う ◇こどもの声が聞こえるまちづくり 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇年2回の花苗植栽(園児～小学生) <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇鮎や鯉のつかみ取り (こどもも大人も、久留米全校区参加可能/わが校区を知ってほしい) ◇こども塾でカレーを作ってふるまう



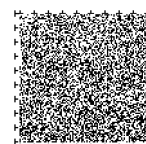
【西圏域】

こんな地域をめざしたい	めざしたい地域のために…
<p>【つながりや居場所があるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇人が集まるコミュニティセンター ◇小学校との交流がある ◇誰もがイキイキと過ごせる地域 ◇高齢者と子どもが触れ合える場所がある ◇各団体話し合いの場を多くつくる ◇孤立する人がいない ◇誰でもあいさつできる ◇地域で活動することが負担なく楽しい時間になる ◇介護施設以外で歩ける範囲に通える場がある ◆相談する場所がある地域 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇登下校のこどもの見守り、声かけ ◇コミセンのこどもたちへの開放 ◇居場所づくり(卓球、茶話会など) ◇学校の授業にゲストティーチャーとして、地域の方を招待している ◆認知症カフェで高齢者だけでなくこどもの参加を呼びかける <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇多世代間交流のための昔遊び(コマ、羽根つき)の実施 ◇今回のような集まり、意見交換できる場の開催 ◇校区こども会議の開催 ◇空き家の有効活用(集いの場としての活用など) ◆大人食堂の開催 ◆相談会の開催
<p>【人口増加・活気あるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇若い人が住みたいまち ◇都会の人を招いて田舎のよさを知ってもらう場があるといい ◇地域全体での子育て、こどもの声が聞こえる地域 ◇にぎわいがある地域(人が集まる) ◆雇用がうまれるまち 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇花いっぱい運動 ◇校区まちづくり会議の開催 <p>できそうなこと・やりたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇都市部からの観光・宿泊促進(農家のおいしい食事を食べてもらうなど) ◆マルシェ直販店
<p>【交通・利便性の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇◆交通の便が良くなる ◇運転ができなくてもどこへでも行ける 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇移動販売 ◇お店や施設情報などを掲載している手作りの校区マップづくり <p>できそうなこと・やりたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇乗り合いタクシーの導入 ◆送迎手伝い(通勤途中にちょっと乗せていくなど)
<p>【防災の充実・安全安心なまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇安全に避難できる ◇避難場所の充実 ◇「助けて」を発信できる地域 ◇語らいの場の実施 ◆大災害のとき、互いに助け合える関係がある 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇防火、防災に関する講演会 ◇防災運動会 ◇大雨、台風接近時に避難や注意の呼びかけ ◆防災リーダー研修の受講 <p>できそうなこと・やりたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇避難所の運営ボランティア(確保) ◆炊き出し訓練
<p>【地域の魅力発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇自然豊かな生活を楽しめる地域 ◇農業について学べる教室がある 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇農業の良さをこどもに伝えていく ◇校区マップ作り(お店や施設等の情報やレビューの掲載) <p>できそうなこと・やりたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇みんなで畑を作る ◇地域で生産される全部の野菜を直売する ◇「できそう」ではなく「楽しいこと」から、「一人でもできるような小さなこと」から始める



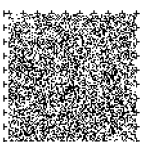
【南圏域】

こんな地域をめざしたい	めざしたい地域のために…
<p>【誰もがつながり合うまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇若いパパママの子育て交流がしたい ◇地域みんながどこかでつながっている ◇顔見知りの関係 ◇高齢者～子どもまで気軽に声かけできる関係 ◇世代を超えた交流の場がある ○子ども会を作ってほしい ◆子どもが親や先生以外に話せる大人が身近にいる ◆地域の人が習い事の先生になる ◆大人や高齢者が昔からの伝統や文化を子どもに伝える場がある 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇おやじの会などの地域活動、また、活動後の飲み会に参加している ◇子ども会活動の手伝い(子ども神輿、子どもへの声かけ) ◇子ども食堂「たけのこの里食堂」の手伝い ◆学校ボランティアを地域の方に担ってもらっている ◆医療センターで入院が必要な地域の人の受け入れを行なっている ◆地域探索学習を通じて、地域の良さや強みを学んでいる <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇買い物サポート ◇出会う人に声かけ(あいさつ等)する ◆裁縫、料理、そろばん、習字などの名人がいるため、習い事の先生になってほしい ◆山でカブト虫教室がしたい ◆医療センターで地域の方達が集う場所をつくり、地域のつながりを処方する
<p>【祭り等の活性化・にぎわいづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇祭りをもっと広い場所で行いたい ◇各町内のお祭りを回れる ○学校と地域で取り組む活動を増やしたい ◆町内すべてで認知症カフェを開催する ◆祭りの日は、開催場所周辺では歩行者天国にする ◆町内対抗のイベント(カラオケ大会、スポーツ大会、避難訓練大会)を行う ◆耳納西麓に隠れスポットがある(カフェ、サウナ、キャンプ場) 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇地域行事のボランティア活動(祭り、文化祭、夜店、公園整備等)に参加している ◆校区の運動会、餅つき大会、敬老会、川の清掃活動 <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇企業を誘致し、移動販売・マルシェ・大きなイベント等を開催する ◇地域行事を若い人中心に計画してもらう ◇通学路を一緒に歩いて、危険な場所を考えたりできそう ◆中学校の文化発表に地域の人にも参加してもらう
<p>【住民同士の交流・あいさつ・声かけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇通学している子ども達へ大人があいさつや声かけできる ◇困っているような人には優しく声かけできる ◇子どもを叱れる地域 ◆子どもが親や先生以外に話せる大人が身近にいる 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇高齢者の困りごと相談、見守り活動、サロン ◇あいさつ運動に参加し、普段から子ども達へ声かけしている ◇大人から子どもたちへ絵本の読み聞かせ ◆中学校で地域探索学習を行い、地域の良さ、強みを知ってもらう <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇老人会との交流 ◇子ども達をラジオ体操に誘いたい ◇ウォーキングで出会う人にあいさつする ○あいさつの呼びかけポスターをつくる ○授業中に教えてもらうことを地域の人と一緒に勉強したい ◆みんなで河川敷のごみ拾い清掃
<p>【生活や交通の利便性充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇なんでもそろそろスーパーが欲しい ◇買い物に便利なまち、 ◇活気あふれる飲食店がある ◇スクールバスやコミュニティバスが欲しい ◇信号のある道路 ◇遅い時間まで動く公共交通機関 ○ガードレールを増やして道路整備してほしい ○学校の設備(エアコン、トイレ)を改善してほしい 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇コミュニティタクシーの実施 <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇コミュニティタクシーの相乗りや規制を緩和する働きかけ ◇移動販売車を誘致する ◇企業を呼び込み
<p>【住み続けたいと思うまち(安心)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇災害が起こらない安心安全な地域 ◇子どもから高齢者まで笑顔で話し合える ○ごみ捨て・ポイ捨てをなくしたい ◆困ったときに相談できる人や場所がある ◆転入者(特に子育て世代)が受け入れられるまち ◆子育てしやすいまち 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇認知症カフェを開催している ◇自宅をイルミネーションで飾ることで防犯につながっている ○ごみ拾い ○ごみのポイ捨てをしないよう注意する <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇高齢者から竹とんぼ、竹馬、水鉄砲等を教える場 ○「ごみを捨てない」「ごみ拾いをしよう」の注意書き看板をつくる ◆eスポーツ大会の開催



【北圏域】

こんな地域をめざしたい	めざしたい地域のために…
<p>【つながりや支え合いのあるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇あいさつが自然にできる ◇笑顔で話せる ◇支え合いがある ◇年齢に関係なく、絆がある ◇困ったときに助けを求められるお付き合いがある ◇福祉と意識せずに支え合えて、相談できる場所が近くにある安心感があるといい ◆お互い様の精神で、互いの違いや事情を認め合う ◆多世代がつながる ◆一人ひとりを尊重し合えるまちにしたい 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇明るくあいさつし、声かけの際は名前を呼ぶようにしている ◇困っていきそうな方に話しかけている ◇外国人にごみの出し方教える ◆あいさつを続け顔見知りになる <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ごみ出し時に高齢の方などへ声かけ ◇高齢者とこどもの交流会 ◇企業等との交流会、外国人との交流 ◇多世代が「お互いに顔見知り」になるきっかけとして、全員参加のお祭り・みこし
<p>【居場所・イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇各自治会の集会所を開放し、子どもや大人があつまる場所・事業がある ◇校区の至る所に誰でも出入り自由な「居場所」がある ◇時折楽しいイベントが開催され、気軽に参加できる ◇クリスマス会、文化祭などのイベントがある ◇子育てサロンがある ◇仲間づくりができる 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇いきいきサロン、子育てサロン ◇クリスマス会、文化祭 ◆すべての人に来てもらえるこども食堂 ◆バザーの開催 <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇町内で花見 ◇調理ボランティアの仲間を増やすためのきっかけとして、料理教室を開催 ◇公民館の庭に椅子とテントを置いておしゃべり ◇ふらっと休める場所
<p>【安全・安心・きれいなまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇浸水に悩まない ◇安全対策がある、安全パトロールがある ◇ごみがなくきれい ◆日頃から関わりを持ち、災害時の助け合いにつなげる ◆気兼ねなくSOSが発信できる地域の雰囲気がある 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇青色パトロール、空き家のパトロールを行う ◇公園の美化(散歩の際に、公園のごみ拾い) ◆清掃ボランティア、道路の清掃 <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇たまにごみ拾いをする ◇ごみは持ち帰る ◆近隣の見守り、危険箇所の把握 ◆多世代へ地域包括支援センター(相談機関)の周知 ◆こどもが地域の人に見守られていると感じられるまちづくり
<p>【生活環境が整ったまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇企業誘致をして商業施設が複数ある ◇コミュニティバスや乗り合いバスがある ◇買い物や病院など移動に困らない ◇遊具のある公園がある ◆駅がバリアフリー ◆介護や医療と地域が連携している 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇近所付き合いでの買い物支援 ◇移動販売車の活用 ◇隣の家の電球交換 ◆民生委員さんやふれあい班長さんとのつながり・連携 <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇買い物に行けるお店の誘致 ◇空家場所を提供する ◆地域バス、移動スーパー ◆免許返納者へのタクシー券の配布
<p>【住民参加が活発なまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇自治会の入会数が多い ◇住民一人ひとりが校区内の役割を持って過ごす ◇団体間の交流がある ◇若い年代の人たちも、地域の役員を担う ◇気軽にボランティア活動ができる 	<p>やっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆時代は常に変わるので、若い人の価値観をよく聞いてみる ◆自分の価値観を押しつけない、人の良いところに視点を向ける ◆サロン活動などの発表の場をつくる <p>できそうなこと・やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇地域行事にできるだけ参加する、周りに声かけをする ◇若い世代に「役員は大変ではない」と伝える「顔見知りになる」ための、地域交流 ◇地域を知る ◆生活支援団体が作っているピブスや旗等をつくりモチベーションをあげる



(6)パブリック・コメント

パブリック・コメントは、市の基本的政策や計画などをつくる過程で、その趣旨や案の内容を広く市民に公表することで、市民の意見を求める制度です。

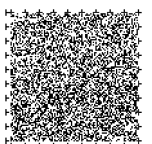
【実施概要】

- 期 間：令和7年11月12日～令和8年1月9日
- 閲覧場所：市健康福祉部地域福祉課、行政資料コーナー、市社会福祉協議会(以下、市社協)、各総合支所地域振興課、各市民センター、えーるピア久留米、中央図書館、市ホームページ
- 意見件数：48件(5名・6団体)

方法	人数・団体数	件数
インターネット(電子申請)	2名・3団体	37件
持 参	2名・2団体	7件
郵 送	1名・1団体	4件
合 計	5名・6団体	48件

○ 意見の内訳：

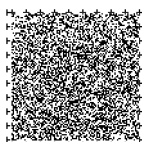
区分	件数	案の修正	
		案を修正	案のとおり
地域共生社会をめざして	1件	0件	1件
1 第2期プランについて	3件	1件	2件
2 市の地域福祉を取り巻く現状	2件	1件	1件
3 これまでの取組みから次のめざす姿へ	3件	1件	2件
4 施策体系	7件	0件	7件
5 評価指標	1件	1件	0件
6 具体的な取組み	11件	1件	10件
7 計画の推進	0件	0件	0件
8 あなたとともに、めざす姿へ	3件	0件	3件
主な相談窓口一覧	1件	1件	0件
【資料編】	4件	1件	3件
その他(計画全般に関して)	2件	0件	2件
その他(その他の意見・要望等)	10件	-	-
合 計	48件	7件	31件



(7)住民説明会

開催日	場所	参加者
令和7年12月17日	市役所 くるみホール	51名
令和7年12月19日	田主丸アリーナ 第3研修室	26名
令和7年12月21日	三瀬生涯学習センター 集会室	27名
合計		104名

会場では、参加者のみなさんに、めざす姿である『みんなでつくる 支え合うところ あふれるまち くるめ』に向けて、自分たちにできることを付箋に書いて貼ってもらいました。

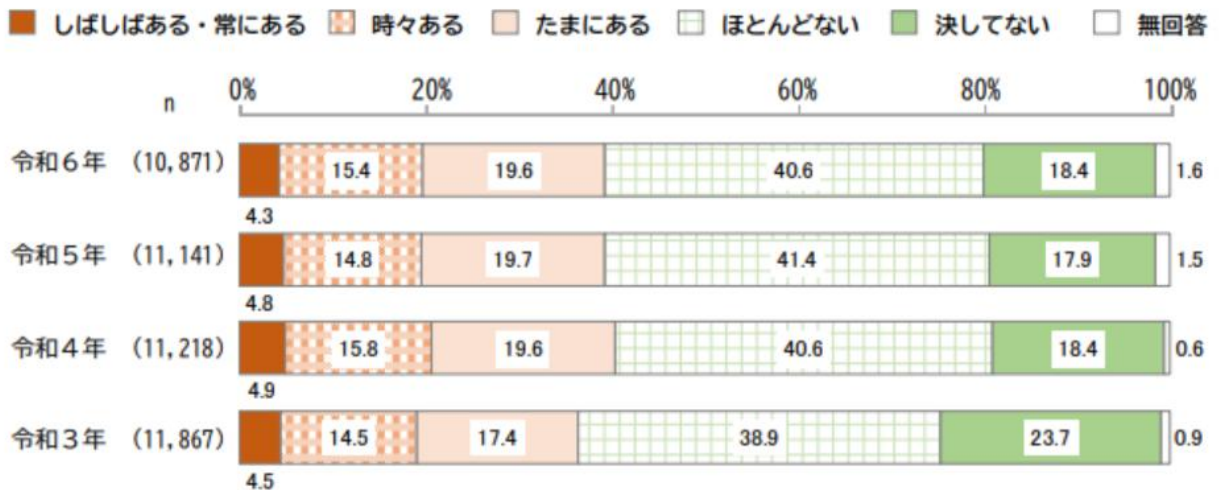


内閣官房孤独・孤立対策担当室「人々のつながりに関する基礎調査(令和6年)」

調査概要

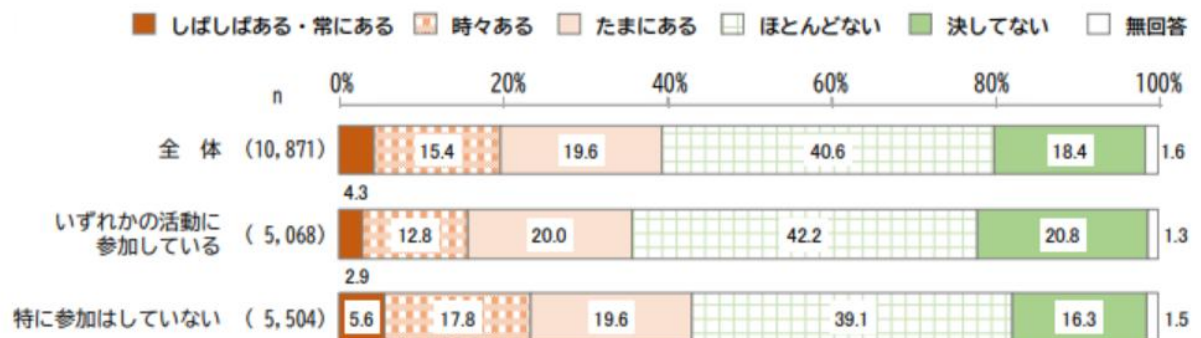
- 調査対象: 全国の満16歳以上の個人20,000人
(住民基本台帳を母集団とした無作為抽出法により選定)
- 調査方法: 調査対象者に調査書類を郵送
- 実施時期: 令和6年12月1日～令和7年1月31日
- 回収数: 10,876件(54.4%)

(1) 孤独の状況



令和6年に孤独感があると回答した人は39.3%となっており、令和3年と比べて2.9%増えています。

(2) 社会活動への参加状況別孤独感



社会活動に参加しているの方が、孤独感が低い結果が出ています。社会活動の種類としては、「スポーツ・趣味・娯楽・教養・自己啓発などの活動」が32%で最も多く、次に「PTA・自治会・町内会などの活動」が17.3%となっています。

